



婦人子とも

フレールベル會

第十六卷
第六號

第十六卷第六號目次

學齡前教育上の注意

三輪田元道

幼児情況調査

安井哲

『エミール』の幼児教育感懐

福島政雄

白痴教育者セガン

紹介子

夏子(ツキ)

若葉

第廿三回三市聯合保育會

本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増
購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送金致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレール會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正五年六月五日印刷納本

大正五年六月五日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者 倉橋惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 岡 功

印刷所 東京市本所區番場町四番地 凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 フレール會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

六月常會

一、六月十日(第二土曜日)午後正二時より

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

一、講 演

自由主義の誤解

日本女子大學校附屬
豊明小學校主事文學士

河野清丸君

○來聽隨意

六月

フレールベル會

生先郎三平島高問顧

モドコ

誌 雜 繪 の 一 本 日

色 特 の 誌 本

- 最もまじめなこと
- 最も教育的なこと
- 最も平易なこと
- 繪の美しいこと
- 記事の面白いこと

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中獨自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

發行所 東京市小石川區林町五十七

モドコ社
 電振 番東 話替 町京 番東
 番番 八三 一六 一九 七 六二

定價一冊拾錢
 郵稅五厘
 六冊郵稅共五拾八錢
 十二冊郵稅共壹圓拾錢
 總て前金の事

婦人と子ども

大正五年六月五日
第十六卷第六號

學齡前教育上の注意

文學士 三輪田元道

教育といふことは大概學校に入學して後に施されるものと思つて居るものが多いやうであるけれども、私は學齡以前に主なる教育の基礎が出来ることゝ思ひます。

東洋では古から胎教といふことを重要視してをりましたが、今日から云ひますれば寧ろ遺傳學から説明した方が便利であります。

さて教育上の大切な問題は第一が父母から來る遺傳で、第二は入學前に於ける境遇、第三が入學後の努力であらうと思はれるが、今日の御話は第一二の問題のみに限りませう。

○復讐心を養ふ誤れる教育

俚に『三つ子の魂百まで』とか『雀の躍百まで』とかいひますが、之には中々の眞理が含まれて居ります、先づ學齡前につきました兒童の習慣は將來まで重大な關係を持つものであります。即ち腦髓の組織は一旦眼で視たものは悉く映るものであります。特に幼時の頭は強い印象を残しますから學齡前の感化に注意しませんければ、善良な効果を結ぶことは出来ませぬ、然るに學齡前の注意といへば、大方の親が誤解に陥り、唯々物さへ教

へれば事足ると思つて居るらしい。誠に歎はしいことでありませう。即ち人の知識は物を覺えることが源であるけれども、時としては人格修養上單に物を記憶することよりも之を失念することが大切の場合もあります。否々兎角人は失念の修養を缺いでをる爲め人品に缺點を生ずるのであります。譬へば、人を恨むとか、復讐することなどは、失念の修養を缺いでをりますから生ずる罪惡であります。少くとも向が謝罪すれば、許容するといふ寛大な徳風を養ふことが、人格上大切であります。然るに、多くの親は其の兒に復讐心のみを、刺戟するが常であります。先づ幼兒が過つて柱に頭を打ちましたときの如きは、我子の不注意はさて措いて罪なき柱を怨み幾度も／＼手にて柱を打つて見せ、又途傍の石に躓いて轉びます時も、其の不注意に對して省みることなく、反つて罪なき石を罰せんため、打つて見せる類は、復讐の念を養成するのみならず遂に正、不正の觀念を轉倒しこれよ

り我儘といふエスチックの性質を増長せしめ、甚しきに至つては偏執狂となります。抑も偏執狂と申すのは如何なる場合にも、己の行動に正しい理屈を附けて、かゝるが故に怒るのであるとか、怨むのであるとか、若しくは悲しむのであるとか感じます。それで幼時から如何なる場合でも己の過ちを棚にあげて、人のみを怨む習慣が、利己主義となります。でこれよりも己の方が實は正しいけれど、向が謝びたのであるから、之を許容するといふやうに、紳士風の態度を養成することが最も大切であります。文明國では一般に、謝するものは之を酌量しますが、野蠻人は之を容赦しません。それならば文明風の紳士淑女を作るには、如何にすればよいかと申しますと、幼兒の頃から邪念を失却させる工夫が肝要であります。そこで修養上失念の價値を認める譯であります。それであるのに、徒らに物を記憶せしむるのみを教育上大切とすることが天下の通弊であります。今日の

世界戦も、必竟は人類に修養の足りない結果と見ることが出來ます。要するに諦めのよい、又氣持のよい、而して衆に好かれる善良な性格を養成することが、躰方の主眼であります。

○早熟をよろこぶ誤れる教育

又諺に『子を見ること親に如かず』と申すことがあります。凡そ親は日夜子と共に生活するものであるから、其長所も知り缺點も知ることが出来るにつき、其子の早熟と晩熟とを識別する必要があります。然るに大抵の親は、子の早熟をのみよろこぶ風があるやうです、併し早熟は概ね下等動物の特徵で、晩熟は高等動物の特徵でありますから、早熟のみは自慢になりません。従つて何等の感じもない赤兒の頬を指尖で突いて、表情を無理にさせて喜んだり。歩行の出來ぬに之を強ひて脚を曲げたり。又お禮、お世辭などを無理にさせますが、これは未だ有難さの觀念が生せぬ間は、

不意味でありますまいか、それでありましたのに、不意味の動作を早熟的に教へて、躰がよいとして喜ぶ親が澤山であります。寔に幼兒の迷惑と申さねばなりません。此のやうな早熟的不自然の刺戟は、日本の習慣の缺點でありませう。或家などでは理解なき言葉を強ひて教へ込み、宅の小供は最早三箇國の言葉を話すと自慢して居ります、即ち有難うを、英語でサンキュー、獨語でダンケー、などいさせて非常に偉大い、所謂麒麟兒と迷する類であります。實に兒童自身にとつては有難迷惑な事でありませうまいか。蓋し兒童は寧ろ大器晩成と申すやうに育てることが肝要であります。何故なれば、印度の婦人に就いて見ても直に知れます。彼の國の婦人は早熟であります、決して之を歡ぶべきものと言へぬ、故に兒童は自然にのびやかに進むやうにさせるのが大切であります。知人の家庭では小學校の一學年に於て既に六學年の本をよく讀むことが出来るやうに小供を教へたも

のがあつたが、その兒は異日、漸次退歩して顔色もわるくなり時々病氣をしました。之は親としてよく致す過ちであるから深く注意せねばなりません。

○子供を弱くする誤れる教育

第三は身體の強弱に依つて種々考へなければなりません。假へば、他の強い兒と比較して我子の弱いのを心配して、俄にそれ牛乳、それ鶏卵、それソーブなどと手を盡しますが、それが反つて害をなすこともありませす。それよりも、何故に弱いかが、その因つて起る源を考へて當を得た攝生法を講ずるが大切であります。尤もこれは遺傳とか、境遇などにもよりますが、實は世話を焼きすぎた兒童を弱くする場合もあります。特に戒むべきは、その兒が成育するにつれて親の希望の通りに立派な衣類や下駄を與へ、又髪を目立つやうに結んで、人形の如にすることを親自身の慰みと心得、否其

兒を世間に引き出し、自慢の種とする者もありませす。これがために兒童は自由に遊びたくも思ふやうにならず、遂に衣類の奴隷となつて天然の發達を害する、兒童は實に迷惑千萬でありますまいか。

○子供を天然の子たらしめよ

子供は天然の子であることを第四の要件と致します。即ち小供は人間の子であると同時に天然の子であることを忘れることは出来ぬ。天然とは即ち、木火土金水であります。その幼稚な時から泥を弄ぶことが自然であります、斯くて土の中から種々な知識をうるのです。尤も土には黴菌の潜む恐れがありますが、これに抵抗することが出来るやうに鍛へられることが肝要であります。次に子供は水にも縁を以てをります。従つて彼が水鐵砲などを非常によろこんで弄ぶのは當然であります。これがため親はその兒の衣類を度々更へる面倒は起るも、これは寔に結構なのであります。そ

れから尙小供は木を好みます。都の人のやうに草木と離れて生活させるのはよくありません。殊に幼稚園には樹木草花を數多植ゑておくことが必要であります。即ち之を摘んで種々な知識を得て樂しみますから自然の教養法と申してよい。狭き一室に數十人もの兒童を入れてゴロ／＼して喜んで居るのは餘り感心しません。又幼兒は火を好むものであります。茲に申す火は特に太陽のことであり、即ち日光浴をせしめるのが大切であります。一體人は太陽から色つけられるがよろしい、それが普通の健康法なのであります。それを多くの親は殊更兒童に白い粉を顔や頸につけさせて喜んでをりますが不思議ではありませんか。兎も角も幼稚園などは日光浴の必要を忘れてはなりません。昔は天地の要素を地水火風と分けました。之は大體でありませんが、之を木火土金水としたのも要領は天然自然と離れてはならぬことを説明するのであります。尤も之を今日の化學に仍て幾十元

素とするも之等と人間は密接して居ることを世の親達に知らしむれば足るのであることをお察し願ひたい。

○性善を發輝せしめよ

尙此の他に兒童の性質を善良にすることが大切であります。即ち躰方の主眼は性善の發揮及び實現であります。故に無意義のお禮をさせるよりも兒童の天真爛漫を歡ぶ美風を作りたく祈ります。而るに此の兒は狡滑のよお菓子を前掛のポケットに入れて、三つのものを二つしかないとて今一つねだると親は其子の不正を喜んで人にも話し又自ら將來は有望と自慢する如き氣分の見えるのは、必竟するに狡滑を伶俐と考へる誤であります。この様の躰方が國民の性質をわるくするのであります。彼のワシントンが偉大であつたのは正直の爲であります。凡そ兒童は友人から嫌はれるよりも好かれる人になるを尊ばねばならぬ、即ち好かれ

るといふことが人望の源であります。この様に正直の性格は國民を善良ならしめるのみならず。やがて其の子の幸福であるから、父母は側に居て何事もよく知つて居る子に向つて、これは誰にもいふではありませんよ、など、虚言を教へてはなりません。唯何事にも公明正大の態度を以て之に教へるがよろしい。一體家庭には一の信仰がなくはなりません。グラッド將軍の偉大なのは家庭に於ける信仰の感化であります。然るに家庭に信

幼兒情況調査

保育上の参考として毎年新入幼兒に對して調査せる幼兒生活狀態の一部を掲げて御参考に供します。

一、往復に要する時間と其仕方

學齡に充たない幼兒を餘り遠方から幼稚園に通

仰なく獨り學校で、神佛は敬はなければなりません、など、申して見たり、又親が怠りものでありませんが其子に働けといふたりした位では逆も高尚な人格の子は出来ません。何れにしても家庭で眞面目の生活を致しませねば子の爲にはなりません。要するに従來の親の教育と思ふて居ることはその實非教育的のものが多く、されば、今日の家庭教育を改善することが兒童研究の急務であります。(文責在記者)

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園主事

安 井 哲

はせるといふことに就ては、考慮すべき點が少くありません。即ち之は睡眠の時間とか食事の時間とか、又は疲勞の問題等に關係を有つ者であります。當園二部に於ては、主として近所の幼兒を收容して居りますが、一部に在つては、特別に住所の區域

を定めませんため、遠方から通つて来る者もあり
ますので、題目の様な取調を致すのでありますが、

本年三月の現在幼児數一部凡百十二名、二部凡六
十名に就ての調査の結果は左の通りであります。

(欄内ノ數字ハ百分率ヲ示ス)

往		往復ニ關スル時間											
組別	片道ノ時間 二部ノ時間	往復ニ關スル時間										組別	
		五分以下	十分以下	十分以上 廿分以下	廿分以上 卅分以下	卅分以上 四十分以下	四十分以上 五十分以下	五十分以上 一時間以下	一時間以上 一時間半以下	一時間半以上 二時間以下	二時間以上		要スル時間 最多數幼児ノ 要スル時間
第一部	五分以下	五										廿分以上 卅分以下	第一部
		一三										十分以上 廿分以下	
第二部	五分以下	一三										十分以上 廿分以下	第一部
		二〇										十分以上 廿分以下	
第一部	五分以下	三										十分以上 三十分以下	第一部
		一六										十分以上 三十分以下	
第二部	五分以下	六										十分以上 三十分以下	第一部
		四七										十分以上 三十分以下	
第一部	五分以下	六										十分以上 三十分以下	第一部
		一七										十分以上 三十分以下	
第二部	五分以下	六										十分以上 三十分以下	第一部
		二五										十分以上 三十分以下	
第一部	五分以下	六										十分以上 三十分以下	第一部
		二〇										十分以上 三十分以下	
第二部	五分以下	三										十分以上 三十分以下	第一部
		二二										十分以上 三十分以下	
第一部	五分以下	三										十分以上 三十分以下	第一部
		二二										十分以上 三十分以下	
第二部	五分以下	六										十分以上 三十分以下	第一部
		二二										十分以上 三十分以下	

調 査

復ノ仕方

電車	徒歩	人力車	片道電車	片道徒歩	片道人力車	片道人力車	片道電車
五〇	四二	三	三	三	三	三	三
五八	一〇〇	三	三	三	三	三	三
五四	三七	三	三	三	三	三	三
一〇〇〇	一〇〇〇	三	三	三	三	三	三
二四	二四	五	一	一	一	一	一
一〇〇〇	一〇〇〇	三	三	三	三	三	三

今此二表を互に参照しあつて観ますと、第一部の幼児は前申した如く住所の區域を限りませんが、遠方から通ふものが多く、最多數幼児の往復各に要する時間が廿分以上卅分以下で（一ノ組だけは五十分以上一時間以下の者もありますが）幼兒の過半數は電車で通ひますが、徒歩するもの決して少くはありません。而も年齢の増すに従つて其百分率の増加することは最も自然でありませう。又人力車を用ふる者は自宅に常用の者を有つて居るか、或は送り迎ひの者を附けることが不便なためであります。

第二部の幼兒は園の附近に住居してゐるために

最多數の幼兒は十分以上二十分以下（三ノ組だけは廿分以上卅分以下の者もありますが）の時間を往復に費します。そして中には三ノ組即ち最幼年者で四十分以上五十分以下の時間を費すに關はず、全部徒歩で通園するといふのは其生活狀態が第一部の幼兒と異つて居ることを示して居ます。

二、間食

吾國の或家庭では幼兒に時を定めず間食を與へる習慣があつて、之れがために胃腸を害することが少くありません。かゝる幼兒は幼稚園に來るために、自然間食の度數を減するやうになり、従つて健康の度を増進することもあります。そこで此

點に就て調査を致しました結果は左の通りであります。

(欄内の數字ハ百分率ヲ示ス)

間食ニ關										
零回	日				平				第二部	第一ノ組
	最多數幼 兒ノ用 ル回数	最少 回数	最多 回数	四回	三回	二回	一回	零回		
1	一回	一回	二回			四	九六		第二部	第一ノ組
1	一回	一回	三回		一三	二七	六〇		第三部	第一ノ組
二	一回	零回	四回	二		二六	六八	二	第二部	第二ノ組
1	二回	一回	三回		二三	五四	二三		第三部	第二ノ組
1	一回	零回	三回		二	一六	七三	一	第一部	第三ノ組
1	二回及 三回	一回	三回		三六	三六	二八		第二部	第三ノ組

スルニ依											
調査											
一回	二回	三回	四回	五回	六回	七回	日				
							最多 回数	最少 回数	最多 回数	最多 回数	最多 回数
一九	七八	四					三回	一回	二回	二回	二回
	六〇	二七	七				五回	二回	二回	二回	二回
二六	四九	一七	二			二	七回	零回	二回	二回	二回
	一五	二三	三一		八		六回	二回	四回	四回	四回
一二	六八	六	一〇	三			五回	一回	二回	二回	二回
八	一五	三一	一五	三一			五回	一回	三回及 五回	三回	三回

間食の度數は幼兒の年齢と家庭生活の狀態とに依つて差違がありますが、第一部幼兒の如く中流以上の家庭に育つた者は、其過半數は比較的規律的な生活をなす者で、(少くとも間食に就ては)其最少數の一部が所謂我儘生活をなして居るもので

あります。そこで間食の度数に就て調べて見ましても、最多數幼兒は平日に一回、休日に於て二回でありまして、其食物の種類と分量とを問題外として見るときには、適當の度数であると考へられます。然るに最も少數の者は、平日四回、休日七回といふやうな多くの度数間食を致すのでありますが、是等は入園前に於てかくの如き習慣を得て居るので、入園後に於ても之れを脱することが出来ず、起床前、就眠前に於て最初と最後の間食をなすといふほどであります。然るに此の如き調査の結果に依つて、母親は其子と他の一般幼兒との生活状態を比較して、自然其教育に注意するやうになり、次第に善良なる習慣に導き入れんと努めらるる方もありますのは實に喜ばしいことでもあります。現に平日四回、休日七回の間食をして居た幼兒は、此調査と共に、母親と保姆と幼兒とが相談の上で其度数を減じ、平日も休日も二回づつに改めました。

又二部幼兒の父兄は、商業や工業の忙しい職業に従事する者が多く、住居も餘り廣くないために、子供は狭い人道で遊ばねばならず、且又目前に多くの食料品を賣買する店があるので、時とすると是等の物を自身に買ひたくなることもあるといふやうな境遇に居るので、第一部に比すれば、最多數幼兒の間食をなす回數が二ノ組三ノ組に於て殆ど二倍に達して居ます。

三 男。女。使。用。人。數。及。躰。を。する。人。

召使の數と種類と、幼兒と彼等との關係が幼兒の教育に少からぬ關係を有ちますので、是等の點に就いて取調べましたが、試に其數を擧げて見れば左の通りであります。勿論職業のために多數の使用人を召使ふやうな場合には之れを省き、家庭に於て用ふる者のみを擧げました。

(欄内ノ數字ハ百分率ヲ示ス)

男 女 使 用 人												
十一人	十人	九人	八人	七人	六人	五人	四人	三人	二人	一人	零	使用人數
												部別
												一部
三	二	三	七	八	五	一一	六	二二	一七	一四	一	二部
			二		四	二	二	六	一九	一三	五四	

(欄内ノ數字ハ百分率ヲ示ス)

主 ト シ テ 幼 兒 ノ											
母及祖母	母及祖父	母及祖母	祖父	祖母	父母	母					
		三		三	一一	七六	一部	一ノ組			
		七	七	七	一四	六四	二部	二ノ組			
五				八	二四	五二	一部	二ノ組			
					一二	八八	二部	二ノ組			
三		三一	三	五	五	八七	一部	三ノ組			
		五		八	八	六九	二部	三ノ組			

數				
使用スル數	最多數家庭ノ	最少數	最多數	十二人
三八	一人		十二人	二
○	○		八人	

「エミール」の幼児教育の感懐 (四)

此表に依つて見ますと、第一部のやうに社會の中の上、及上の部に位する家庭に於て、最多數が使

其他	純粹ニ依ル者 父母ニ依ル者	女中	家事監督	家庭教師	人			父母及姉
					母及附添	祖父母及叔母	母及兄	
一四	八六	三	三	三				
二二	七九							
二四	七六				五	三	三	
	一〇〇							
二四	七六	三	三		三		三	
二三	七七							

用する召使の數は三人で、最多きは十二人、第二部に在つては、最多數の家庭は召使を有たぬのであります。而して多數の召使を用ひて居る家でも、其多數は一人の幼兒に對して誰か定まつた一人の召使を附けてあつて、之れに主として衣服の着脱とか食事の世話とか送り迎ひ等をなさしめるのであります。併しかくの如き附添人が幼兒に與ふる感化は中々少くありませんので。本園では受持の保姆が日々起る特別な出來事に就て、是等の人々に注意を與ふるのみならず、毎月一回主事から幼兒の取扱其他に就て話をするになつて居ます。又幼兒の躰に對しては第一部第二部共母親及兩親が主として之れに當つて居るのは實に喜ばしいこととであります。

文學士 福島 政 雄

四、眞の教育者

偽れる今の世よ。誠心の花の咲き出でむとする
緑り子の行く手を守り導くべき人は何處にかくれ
たのであらう。名のために利のために金錢のため
に將た又單なる生活の爲に花園の花守とならむと
する今の世の人よ。如何なればかゝる心をもつて
美しき幼な子の心を導かうとはするのであるか。
誤れり、誤れり。偽れる心と誠の心と、何れが導
き何れが導かるべきものであらうか。偽
れる心こそ誠の心に導かれ、幼な子こそは今の世
の人の心を導くべき尊い寶を胸に秘めて居るので
はないであらうか。然るを人は年の進めるを導く
資格の唯一に數て居るかのやうに、我れこそは教
育者であると言はぬばかりに、しかも多くは時々
折々の出來心に任せて清い幼な子の心に汚れの塵
を据ゑやうとして居るではないか。何といふ誤れ
ることであらう。これが果して眞の教育者であら

うか。

我が心の底の叫びは直にこれに應じて否と答へ
る。己が出來心に任せて子供を扱ふとき繊弱な子
供の心はたい損はれるばかりである。子供の心を
損ふことが何れに眞の教育であらうか。眞の教育
は自然の道を辿らねばならぬ。不自然な道を進め
ばこそ幼な子の心を損ひもすれ、自然の道を辿る
教育者が何とて幼な子の心を損ふことのあらう
か。然らば自然とは何事であるか。ルソーは教
へて言ふ、墮落せる人意を加へざるもの此の心即
ちこれ自然であると。實にや墮落せる人意は一時
的の出來心の基となる。天理の自然は悠々として
行はれるのに人意の不自然は屢々障礙にあふもの
である。此に於いてか人の心が激する。激して行
へばなほ更に物事が行はれない。此に於いてか「方
法！」といふ聲が起る。教育は自然の道をはなれ
て人爲の方法の下に束縛せられて形式化せるもの
となる。形式化せられた形式の中に於いては如何

なる人たりとも『教育の俳優』となることが出来る。しかも『俳優』によつて行はれる教育が果して眞の教育であらうか。精神のこもらぬ不自然なる名利の教育が果して眞の教育であらうか。

眞の教育を行ふの人は幼な子に學ぶことを樂しむ人である。幼な子に教へることを樂しむの人は、少くはない。併しながら幼な子に學ぶことを樂み得る人は果して幾人あるであらうか。幼な子の心に立ち入つて幼な子の生活を學び而して幼な子の友たることを無上の樂しみとする人でなければ決して眞の教育者となることは出来ない。

けれども幼な子がよく従順によく善良であつて導きの下に素直に發達するものばかりであるならばまだしも教育者たることは難くないことであるかも知れない。併し若しもその幼な子が不従順であつてなかく素直に教に従はないやうなときは如何であらうか。こんな時に今までの心が挫けてしまつてその幼な子を怒り感情の激するがまゝに

其の時の出來心に任せて幼な子を取扱ふならば教育者たるの資格はこゝに消滅してしまふと言はねばならぬ。

あゝ眞の教育者となること―世にこれほど重い役目があるであらうか。

しかもこれらの事は悉く満たされねばならぬ條件であることを思ふとき眞の教育者の得がたきことを悲しむの士は何れに一人や二人に止らうか。

ルソーの述べて居るとほりに文明が進めば進むほど人は自然を遠かるといふことは眞理である。

ルソーの述べるやうな自然の昔そのまゝにかへることが果して人間の理想であるか否かは疑問であるにしても近世文明の波浪の中を浮きつ沈みつ流れて行く名利の人が果して人の子を教ふるに相應しいか否かといふ疑問は答へずして明かなことである。所謂文明が進んで人が悻口になればなるほど自然の教育は去つて巧智の教育が盛んになり眞の教育者はかくれて名のみ形式的教育者が時

を得顔に増加して行く。あゝ斯様にして世は果して眞の進歩を爲すのであらうか。幼な子はむしろかゝる教育者から墮落に導かれることはないであらうか。

然らば眞の教育者とは如何なる人と言ふのであらうか。ルソーは次のやうに述べて居る。

善良なる教育者の資格に就いては屢人の言ふ所である。第一の最も重要なことはあらゆる他の資格よりも大切なことであつて教育者は單に金銭のために教育を行ふと云ふことではいけないと言ふことである。この人世には極めて高尚なる職業がある。其の神聖なる職業を下等なものにしてしまつて金銭を得る手段とするならばその價値はなくなるのである。此の神聖なる職業こそは教育者たる職業である。然らば子供を教育する任務は誰にあるのであるか。余はこれに答へて言ふ。汝自身にあるのであると。汝は子供を教育すると云ふことは出来ないと言ふのであるか。

嗚呼教育者！何と云ふ高尚な精神であらう。誠に人間を作るためには自分が父となり而して後に教育の事を行はねばならぬ。諸君はかくの如き神聖なる職業を安心して雇教師などに打ち任せることが出来るのであるか。

この事を思へば思ふほどその困難はますます痛切に感ぜられるのである。子供を教育する爲には先づ教育者を拵らへねばならぬ。その教育者は又教育に依つて養成されねばならぬ。斯くの如くにして教育の前に教育があり又その前に教育がある事を考ふればついにその最初の第一人まで教育せねばならぬ事になる。即ち自分の子供を教育する爲にこれを託する人を定むる前に幾十人の人を教育せねばならぬ理である。よき教育を受けない教育者から導かれた子供がよくなると云ふことはどうして出来るやうか。

かやうな人が果して今日もとめ得られるであらうか。余はこれを知らない。この墮落せる時代に

於いて人間の精神は如何なる程度まで善美の境に進むことが出来るのであるか。誰かこれを知る者のあらうぞ。眞の教育者の資格を眞面目に考へる父親はかかる教育者をもとめることは全然不可能であると考へてあきらめるのは分りきつたことである。かゝる父親は他より教育者をもとめるよりも寧ろ自ら子供の教育者となることを望むのである。

或人が余にその子供の教育を依頼しやうとした。余はその人を知らず唯其人の名門の家柄であると云ふことを知つて居るばかりである。その人は今にその子の教育を依託すると云ふことは余に非常な名譽を與へる所以であると考へて居る。然しながらそれは間違つて居る。若しも余が其人の要求を容れて教育を行はうとするならば余が胸中にある教育法は間違となつて教育は不結果に終るに相違ない。又もし余の希望通りの教育法が行はれんとしたならば一層悪いのである。何となれば

その子供は余の希望に適ふ様になつて最早や名門の子なる事を欲しない様になるからである。』

此のルーソーの言は何を意味するのであるか。

子供の眞の教育者はその父母より外にはないといふことを意味するではないか。誠に子供の眞の教育者たる資格のあるものはその子の父母より外にはないのである。

親心！あゝ何といふ美しい心であらう。親心に發して親によつて行はれる教育ほど子供の眞の心の底までしみ入る教育があるであらうか。げに親心なればこそ名をも利をもはなれるのである。金錢をも名譽をもはなれるのである。此の心による教育こそは眞の家庭の教育であり誠の教育者の下に於ける教育であるのである。

此に自然といふことがまた生きかへつてくるのである。似て非なる文明の害毒を受けて親心を忘れる親もあるであらう。親ならぬ親もあるであらう。さりながらそれは多くは悲しむべき境遇の下

に苦しめられた結果として親心を失つた誠に不幸なるあはれむべき人々である。自然の親心が自然の間に發露して來るところには必ず眞の教育が行はれるのである。

子供が不従順であればあるほどその子供をあはれむことの出來る心は親心より外にはないのである。子供が素直でなければただに益々その子をあはれにおもふ心は親心より外にはないのである。かゝる親心の暖かな光の中に育てばこそ子供は人となることが出來るのではないが。

眞の教育者は親より外にはないのである。あゝ親としての眞の教育者、何といふ尊い名であらうか。美しくかゝりやき照す日の光にもたとへられるにはかゝる親心の教育ではないか。

眞の教育者が親であると共に眞の教育所は家庭である。家庭は親といふ眞の教育者になつて經營せられる最も尊い人生の教育の場所である。あゝ天下の人よ、何故にこれを思はぬのであるか。

此に於いてか偽りの世は消滅し去らねばならぬ。此の偽れる文明——ルーソーによれば『墮落せる文明』——の世を清めゆく力は親心より外にはない。而して我々は自ら省みて親心にかへることによつて眞の教育者としての眞の自覺に入ることが出來るのである。

斯かる立場からながむれば幼な子は實に我々を尊い親心にかへらせる縁となるべき我々の指導者である。紅葉のやうなその手は汚れたる我々の手をとつて汚れたる文明の波浪を超越させ、そして此の名利に迷はむとする我々の胸中に厚い親心の萌芽をよびおこすのである。何といふ尊い因縁であらうか。

すべての人が眞の親心にかへりさへすれば此の世は眞の教育者によつてみたまされるやうになるのである。偽りにみちたる世と誠にみちたる世とは何れが望ましいのであらうか。偽りの世を悲しむ心は誠の世を望む心ではないか。そして偽りの世

に呱呱の聲をあぐる幼な子は常に此の偽りを誠としやうと無意無心のうちにつとめて居るのに、夢幻に酔へる我々の心はいつまでもいつまでもこれをさとすることは出来ないのであるが。親心にかへることは出来ないのであるか。

日々を幼な子の友として送れる天下の姉妹たちよ。母たる自覺にかへる縁は卿等が目の前にみち

白痴教育者 セガン

—(ポイト氏による)—

十九世紀の始の頃までは、缺陷兒就中白痴は到底教育すべからざるものと看做されてゐました。佛蘭西や亞米利加に於ては、比較的早くこの方面に着眼する人があつて白痴教育を試みた人もあつたのでありますが、何れも著しい成績を擧げる

みちて居るのに何故にこれを見やうとはせられぬのであるか。何故に一時の樂をこゝに求むるに止つてそこに永遠の親心の泉を汲まれぬのであるが。ルーソーの言葉を借り來つて思をのぶる眞意、眞の教育者の意義を悟られるならば余の言葉も亦空の空に消え失せることはないであらう。

紹 介 子

には至りませんでした。然るに千八百三十七年「白痴の使徒」エツアール・セガンが所謂生理的教育法を創始して著しい効果を收め得た爲めに、人々は漸くこの方面に注意するやうになり、一般教育の進歩と共に缺陷兒の教育も次第に進歩するやう

になりました。

○彼れの生涯、精神、事業

エヅアール・セガンは千八百十二年、佛蘭西のクラムシーに生れました、彼は「アエイロンの自然兒」を馴致教育して名聲を博したジャン・マルク・ガスバール・イタールの下にあつて醫術並びに手術を習得しました、而してイタールに憑憑されて白痴の研究調査及び取扱方に生涯を委ねることにしたのであります。斯くの如くセガンはイタールの門から出ては居るのでありますが、イタールの弟子ではないのであります。セガンはたゞイタールによつて問題を得たゞけでありまして、彼を導いた思想は、かの有名な社會主義者サン・シモン及びその後身の思想であつたのであります。セガンは二十五歳の時、缺陷兒教育の最初の企畫を行ひました。セガンは精神病研究者として著名なエスキロールの下にあつて缺陷兒教育に努めたの

でありませんが、エスキロールも到底その不可能なことを斷言して居りました。然るに一年半のセガンの勞苦は酬いられずには居ませんでした。彼が面倒をみてやつた缺陷兒はその感覺を働かせることが出来るやうになり、比較したり、話をしたり、物を書いたり、勘定をしたりすることが出来るやうになりました、この成功に力を得た彼は缺陷兒學校を創設して益々その企畫を擴大して行くことに努めました、五年の後に彼の功績は巴里學術協會からも認めらるゝやうになりました。彼はこの間常にパンフレットや著書を公にして彼の説の弘布に努めてゐたのでありますが、千八百四十六年には「白痴及缺陷兒の論理的取扱、衛生及び教育」といふ時代區劃的な著書を公にしました。この著は一般世間から直ちに認められ、前記の協會からも推贊せられました、セガンは人道の爲めに大なる貢献をなしたとあつて羅馬法王バイアス九世から親筆の感謝狀を受取りました。缺陷兒を如何に

取扱ふべきかに就て考慮を費してゐた程の人々は皆目を瞠つてセガンの仕事を見るやうになりました。た、世界各地の精神病研究者がセガンの仕事を見るために巴里に集つて来るやうになりました。けれども好事魔多しとやら、セガンが成功の時間の真只中に於て、千八百四十八年の革命が勃發したのであります。セガンは新政府の施政を喜ばない事情がありましたので、故國を去つて米國に移り住み、この地に於て再びその事業を續けて行くこととなりました。セガンは始め暫くオハヨーに滞在し、次いでペンシルベニアの白痴黄育院を主宰することになりました。けれども英語を便ふのに多少の不便を感じた爲めであつたかして、セガンはあまり腕を振ふことが出来ませんでした、その後一度故國を訪れた後、セガンは事業から退いて紐育に隱栖するようになりました。しかも缺陷兒教育に對する彼の興味が失せ去つたわけではありませぬので依然彼はこの方面に携つて居る人々に有益

な助勢や助言を與へることを惜みませんでした。

セガンの最後の事業は、紐育市に精神薄弱兒及び身體薄弱兒の爲めに、生理的訓練を與へる學材を創立することでありました。彼はこの學材の設立趣意書の中に「生理學を教育に應用することは余が青年時よりの仕事にして、四十二年來余が思想の主なる對象なりき、余は余が晩年をこの事業に傾け盡さんとす」といふやうなことを言つて居ります。けれども這麼趣意書を書いて二週間と経たない内に、彼は不歸の客となつて了つたのであります。一八八〇年けれども彼の一生には意義がありました、彼の一生の宿題タスクは既に完成せられてゐたのであります。彼はその青年時の願望が十分に實現され、その原理及び方法が世界の缺陷兒教育の根抵となつたことを知つて、安心して瞑目することが出来たのであります。

○彼れの教育原理

次に少しくセガンの教育原理を説明してみませう。

セガンにとつては、缺陷兒教育は特殊なものではありませんでした。缺陷兒教育は普通教育と同じ目的を有して居り、その方法の如きも、普通の方法を精神的缺陷あるものに應用するに過ぎないのであります。これは學校で普通に行はれてゐる方法を取り來つて、直ちに缺陷兒の教育に適用するといふ謂ひではありません。學校で行うて居る方法はセガンの考によれば、普通兒にとつても適當なものではないのであります。セガンの言ふ所に依れば、學校は體質に於て異り、生理的要求に於て異り、精神的傾向に於て異る、數多の兒童を集めて日日毎日無差別的に、四五時間づゝ智識の餌を與へて居るのであります。記憶といふ機能のみが使用されてゐて、その他の精神的及び身體的の機能は全然閉却されてゐて萎微に任してあるのです。斯る教育に取つて替るべく、個體的の生

活力を擱み得る教育、すべての機能、作用及び性向に於て全人ホイルマンを作らんとする教育が、起らなければならぬとセガンは主張するのであります。畢竟彼の説く所は、各兒の個性を尊重して、その力一ぱいの發達を遂げさせることでもあります。

普通兒の場合には、このことは太して困難ではありません、健全な機能の使用を規則的ならしめ、その作用が自由に容易に働くところの範圍を擴張すればいゝのであります。缺陷兒の場合には、屢々診断や取扱に困難を感ぜしめる神経系統の病理學的狀態の存在に於て、より多くの問題を含むこととなるのであります。この場合に於ては發達し來るべき機關を待つて居るのではなく、何うとかしてその生活力を遲鈍狀態から覺醒せしめて、教育が始まる前にその活動を起さしめなくてはならないのであります。

人間の精神には智情意の三者が働いて居ります、この三者はそれぞれ劃然と分けらるべきもの

ではありませんが、便宜のために普通斯くの如く分けて考へるのであります。人間は同時に感じたたり。理解したり、欲したりするのであります。けれども教育は必ずしも同時にこの三者に訴へて行くものではありません。人間の成長する様を見るに、知る前に、先づ動き且つ感するのであります、その行爲及び思想の論理的意義を意識する前に、長い間知つて居るのみで過ぎるのであります。この理由からして教育は精神作用を取扱ふ前に、身體の活動を取扱ふべきであります、意志を取扱ふ前に身體の活動を取扱ふべきであります。

兒童の無心の運動が矯正され、筋肉装置の缺陷が補充されない内は、正當な教育の開始を考へることは無駄であります。「混亂せる作用によつて障礙されて居る畑に智的機能の收穫を何うして期待することが出来ませう」とセガンは言つて居ります。教育を受ける準備としてその以前に、看護婦なり醫師なりが、身體的健康を確立し、支持する

ために、衛生學を應用したり、藥餌を投じたりすることに於て遺漏があつてはなりません。

扱てその次ぎに、始めて身體の教育が始まるのであります。セガンは物理的並びに生理的過程なることを示さんが爲めに「身體の教育」といふ代りに「活動の教育」といふ語を選んで居ります。

活動の教育は運動能と智覺能といふ二つの相關的方面から考へられなければなりません。運動能は多くの行爲、作用、習慣及び身振り（これによつて個人はその周圍の世界との關係に入り、而して又その内的衝動に外的表現を與へます）を含んで居ります。知覺能はその媒介物として身體の表面に分布して居る種々の感覺官を持つてゐますので諸感覺が外界から得來つた感念をば感覺中樞へ送るのであります。

一般の教育は心の問題にばかり捉へられてゐて身體の問題を全然忘れ去つて居ります。而して運動能と知覺能との訓練を機會に委して置くばかり

であり、けれども人間性をよく考へてみればこれは明かに間違であることが分ります。身體は完全な生活に於て、その役目を果たすためには心と同じやうに訓練を必要とするのであります。天の恵み如何に厚き兒童であらうとも、その身體の運動は決して私達の想像するやうに、規則的なものではありませんが、又有効的なものではありません、而して白痴に於ては彼等の殆んどすべてが幾分の異常を有し無力を現して居るのであります。感覺に就ても同じことであります。普通の場合、それから病的の間合はいふまでもなく兒童は特別の取扱ひを受け、その作用を、より規則的に、より正確に、より敏捷にならしむる必要があります。

○筋肉の教育

セガンの方法の主要な點は、精神薄弱者を教育する出立點として、筋肉の協働作用を修練させることとあります、即ち彼は、缺陷ある身體機關を教

練して、その機能を發達させ、又機能を修練して缺陷ある身體機關を發育せしむることを力説したのであります。

大抵の白痴は幼兒が据ゑられたまゝ動かないで居るやうに、又は物を掴むことが出来ないといったやうに、運動の能力に於て部分的に缺陷を持つて居るものであります。而して又一方には多くの不秩序的な運動（多くは手首や指などに於て）を持つてゐて、正しき活動を修練せしむる障礙となるものであります。取扱の一般原理として、或る一つの缺陷があつたならば、それにのみ目をつけずに、動力作用の一般的不能から來る一部の現れとしてそれを取扱ふのであります。

先づ一番最初に爲さるべきことは、白痴の消極的不動性を、すべての尋常の活動に於ける出立點である所の故意の不動性に變へることとあります。兒童は何か覺える前に先づ自分の意志で立つたり、坐つたり、屈んだりすることを學ばなければ

ばなりません。兒童が幾分その運動を支配し得るやうになり、又しばらくは停止して居ることが出来るやうになつたならば、歩行の訓練を與へるべきであります。兒童が若し動くことが出来ないか又は動く事を欲しなかつた場合には、自發的に爲したと同じやうな効果を與へる機械的な方法を用ゐて本質的な運動を行はしめるのであります。即ち baby-jumper とか跳板とかを用ゐるのであります。非常に缺陷のある者に對しては尙この他に種々の工夫を凝らし、音樂などを應用して居ります。是がしつかりして身體の土臺が据わるやうになると次ぎは手の訓練であります。先づ物を握つたり、放したりすることを練習するのであります。これには梯子に乗せて手を離すと落ちるので止むなく手を働かせるといつたやうなことをさせたりなぞするのであります。尤も梯子から落ちないやうに先生が抑へて居ることは言ふまでもありません、セガンは又スピードや如露や木馬や槌等を應

用して、成るべく興味ゆたかに兒童に修練せしむることを念として居ります。手足の訓練が十分出來上つた後、兒童は摸擬によつて種々の活動を誘ひ出されるのであります。

摸擬といふことは被動的ではなく、さうかと言つて能動的でもありません、摸擬の手引は被動的イニシエーションであります。摸擬の實行は能動的パフォーマンであります。摸擬には二つの形式があります。他人が手を上げたから自分も手を上げるといふやうな、他を真似る身體的の活動は身體的摸擬モウイであります。他人が机の上トに本を伏せたから自分もその通りにするといふやうなのは對象的摸擬オブリであります。この兩者は共に必要であります。就中前者は必要であります。體操によつて力と忍耐とを修練し得るとするならば身體的摸擬によつて正確と迅速とを學び得るのであります。兎も角坐るとか、立つとかいふやうな身體全體の運動は摸擬によつて習得し得るのであります。續いて眼瞼とか、唇とか、舌

とか指とかいふやうな特殊の器官の運動に移るの
であります。けれども如何なる白痴を取扱ふ場合
でもステロ版で起したやうに一つことばかり繰返
して居るのはいけません、常に種々の器官に訴へ
て、兒童が己れの意志によつて摸擬を行ふやうに
仕向けなければいけません。摸擬を課してゐる内
に兒童の顔が漸々と引締つて來ますので、その結
果の目覺しいことが明瞭に分ります。

摸擬は或る程度までは一人々々に就て教へなけ
ればなりません、或る程度に達してからは缺陷
兒を一所に集めて練習する方が便宜であります、
稽古が若し新しいものである場合には、兒童はた
ゞ先生の行ふのを見得るやうに並ばして置くので
あります、若し又稽古がそれまでに幾度か行つた
ことがあります、たゞそれを正しく且つ早く行ふため
に練習をする場合であつたならば兒童は先生を見
得ると同時に兒童同志がお互ひに見得るやうにし
て、二重の刺戟を得るやうにするのであります。

摸擬によつて爲さるゝ體操は實に測り知るべから
ざる効果を有して居るのであります、缺陷兒は
これによつて諸運動を迅速にし、視覺作用を改善
し、知覺の範圍を擴張し、理解に正確を與へ、全身
體を意志の統轄の下に持ち來たし、就中死せる手
を教育して生きたる仕事を爲すを得しむるのであ
ります。それは随分まだるつこい仕事です。個人
的に、團隊的に數ヶ月も辛抱して練習して居ると
兒童はやがて稽古に於ける摸擬が巧みになるばか
りでなく、日常生活にまで新しく習得した摸擬の
力を應用するやうになるのであります、この時に
はもう缺陷兒は先生がすると同じやうに食べやう
とし、着やうとし、立たうとするのであります。
而して自分よりも劣つて居る他の缺陷兒を導かう
とするやうになるのであります。而して遂に他
の、より多く恵まれた兒童達が強制された時にの
み行ふことを習慣の力によつて行ふやうになるの
であります。

○感覺の教育

筋肉系統の異常が正されたとしても、感覺の異常がある限りは缺陷兒教育は又一つの躓きに出會するのであります。觸覺は諸感覺の元であり、又一番先きに活動を開始する感覺でありますから、これに就ては十分注意を拂はなければなりません。通常缺陷兒の觸覺は鈍いものであります。把持の練習が出来て居る場合にはこの感覺を喚び覺ますのに、左まで骨は折れません。

嗅覺や味覺の發達も缺陷兒教育に非常な關係を持つて居りますので、セガンは斯る感覺に對しても種々工夫を凝して、その發達を企圖して居るのであります。

聽覺に關して言ふならば、缺陷兒の特色として、聞くことは出来るのですが、傾聽することは出来ません。乃でこれを何うするかといふに雜音（例へば雨の音、風の音、フライ鍋の煮え立つ音等）、

音樂及びお話によつて導くのであります。

最後に特別の訓練を要すべきものは視覺であります。缺陷兒は多くの場合に於て、單に見るばかりで、凝視することが出来ないであります。之を救ふためには萬化鏡カレイドスコップ、色球、圖表、繪畫等によつて注意を惹き起さしめ、次第に導いて視覺を一pointsに集め得るやうにさせるのであります。又先生が缺陷兒の眼を凝然とみつめるのも効能があります。

讀書及び言語の修練は、缺陷兒の教育上、最も困難なことであります。是等の兒童をして發語せしめるためには十分の忍耐を以て舌、唇等の運動を練習せしめ、次第に發音を學ばしめなくてはなりません。模擬や唱歌や根氣よく誤謬を正すことによつて一般の身體狀態の改善が促された時に於てこそ舌や唇の運動も兒童が意の儘に支配することが出来るやうになるのであります。しかしながら言語の使用は發達せる精神力に俟つ所が多い

のでありますから、斯る生理的の練習を行つたの

みでは固より言語の練習を全うし得らるゝものではないありません、打つといふ動詞は打つ身振りにより、泣くといふ動詞は泣く真似によつて教へると云ふやうに成るべく具體的方法を用ゐて言語を習得せしめるのであります。白痴の教育に於ては智的教育といつても以上の程度に止らざるを得ないのであります。セガンは尙その上に白痴をして幾分なりとも社會のために役に立つ人とならしめたいといふ希望から、生活を支配してゆくために重要缺くべからざる所の記憶と想像とを興へや

うとして居ります。

斯くてセガンは白痴教育の土臺を築いたのであります。セガンの著書としては前にも一寸申しました

『白痴及び缺陷兒の倫理的取扱、衛生及び教育』（一八四六年出版）及び千八百六十六年に初版を發行し、千九百七年に再版を發行した。

『白痴及び生理的方法に依る其の取扱方』以上の二部が有名であります。尙この他にも千八百四十七年のチェンバース・ジャーナルにも彼の論文が三篇程掲載されて居ります。

小説

夏

子

（つゞき）

若

葉

六

それから後、夏子は度々病院を見舞つた。芳枝が、誰れよりも自分の見舞を喜ぶといふことを聞

いたからでもあるが、實際芳枝の容態が氣にかゝつてならなかつた。それから又一つには、芳枝のお母さまが妙に夏子をひきつけた。あの脊のすら

りつとした、上品な、しかも一點の氣品ぶつた處のない淑かな姿、色の白い顔が看病にやつれて、どこことなく蒼味を帯びて居るが、それでも話をし

て居ると頬の邊にうすく紅をさして來る和かな表情。それ等は夏子を親ませずには居なかつた。夫人の方でも夏子の見舞をよろこんで、いろ／＼と氣安く話をした。斯ういふ場合によく出勝ちな愚痴つばい言葉などは、たいの一度たりとも漏らされたことはないが、時によると其のやさしい目の底に、かすかに涙を見るようなことは間々あつた。そして、そういふ時には夏子の方が餘り眞面目な顔つきになつて仕舞ふので、いつでも夫人の方から、巧みに其の場の感じを和らげた。此の眞實で居てしかも決して迫つて來ない態度が、夏子をして言ふにいはれぬなつかしさを感ぜさせた。けれども何よりも夏子を深く感ぜさせたのは、芳枝さんに對する其の態度であつた。二人の看護婦と女中とが、まめに働いて、夫人は別段何をする

といふこともなかつたが、日夜に病室を離れなかつた。そして、芳枝さんには、いふ迄もなく誰れよりも必要な看護者であつた。

入院後十日ばかりたつた頃は、芳枝の病狀は甚だ危険な位ゐの狀態になつて居た。そしてカンフルや食鹽水の注射が幾日も續いた。平生聞き分けのよい芳枝も、注射の苦痛だけには殆んど絶泣して身を悶へた。流石の醫師も氣兼ねしい／＼其の必要を一回毎に辯解でもする様に説明したりした。そういふ時の夫人の態度はいつも立派なものであつたそうである。

或る日夏子が見舞つた時、丁度注射が濟んだ處であつた。そして、芳枝さんは横むきになつて睡つて居た。夏子はすぐ歸ろうとしたが、夫人がとめるので靜かに椅子に腰をおろして、芳枝さんの寝顔を見た。夫人も傍に椅子をもつて來て腰をかけた。二人とも黙つたきりである。丁度看護婦達は用があつて外へ出て、病室内は物音もなく靜か

であつた。芳枝さんのかすかな寢息きだけが聞える。注射に泣きつかれて、其のまゝ泣き寢入りに眠つて仕舞つた芳枝さんの既は、まだ涙にぬれたまゝになつて居る。血の氣の少なくなつた小さい唇が、それでも健康の時と同じようにさちんと結ばれて居る。夏子はぢつと黙つて見て居たが、白い毛布の下から一寸出て居る、其の瘦せ細つた手を見た時に、もうたまらなくなつて仕舞つた。夫人は、そうと立つて窓の處へ行つて、重たいカーテンを音のしない様に、そつとひいた。夏子も殆んど無意識に椅子を離れて、其の窓の側へ行つて夫人と並んで立つた。窓へは直接には日はさして居ないけれども、外には五月の青い日光が並木の様に植えられて居る楓の茂りの間に流れて居た。二人は矢張り黙つたきりである。やがて夫人は靜かな聲で言つた。

『外はお暑う御坐いませう』

『急にお暑くなりまして』

『幼稚園のお子さん方は皆さん……』

『こんな気候が急に變りますと、加減の悪くなるお子さんがよくありまして、お休みが澤山ありますので困ります。』

『子供の病氣程つらいことは御坐いませぬ』

『奥さんもお疲れで御坐いませうね。』

『私で御坐いませんと、芳枝が承知いたしませんもので御坐いますから』

『左様で御坐いませうつて』

口では斯ういつた丈けであつたが、夏子の心には、可なり強い感じを以て、夫人の今の言葉を聞いた。『芳枝の爲には自分でなくてはならない』といふ言葉、こんな力強い言葉が、母の口からでなくて何處から出よう。いろんなことを考へ過ぎて鈍つて居る夏子の頭には、斯ういふ力の言葉でなくては感じない。理屈じやない。思想じやない。

格言でもない。事實だ。人の心の事實だ。事實から出て事實を語る言葉には眞實の力がある。夫人

の淑しい物の言ひ方には、表には何の主張もあらはれて居ないが、裏を解いて見れば、『芳枝の病氣は私が居なくては癒らない』といふ、強い自信が籠つて居る。之れを親心のあたりまへとして見て仕舞へば、それ迄のことであるが、此の親心そのものは何といふ偉大な力なのであらう。

夏子は親心といふことに就て今始めて知つた譯ではない。しかし、此の場合、此の人の口から此の言葉を聞いて、一種の感にたえなくなつたのである。

夫人と夏子とは再び静かに寢臺の側へ來た。芳枝はさつきからよく熟睡して居る。

七

今日は講習の日である。夏子は元來知識慾の可なり強い方であつた。出席することの出来る講習會へは大低缺かさずに出た。又幼稚園で購入する教育書類などは、いつも夏子が第一に借りて歸つて讀んだ。人間の知識慾は加速度で進むものであ

る。斯うして知識に近づいてゆけばゆく程、夏子は知識の興味を増した。興味を増すと共に頭も進んだ。そして明瞭さと細緻さとに於て知識に對する要求の程度が次第に高くなつた。おとなしい夏子は、人の前に自分の知識を語るようなことは決して無かつたけれども、それでも其の學問すきは同僚の間にも認められ、尊敬もされて居た。自分でも學問すきの方だと思つて居た。

然るに、此頃になつて、知識に對する夏子の興味の具合が餘程變つて來た。學問の尊嚴を失ひはしない。知識の必要を忘ればしない。殊に自分の無知に關する感じは、少したりとも鈍つたのではない。たゞ何だか知ら物足りなくなつた。分らないではない。面白くないではない。殊に知識の中に自分を樂しませて居る時の快感は、決して變らない。しかも、知識の中から一步外へ立つて、其の知識なるものを顧みると、否寧ろもつと嚴密にいへば、其の知識と自分との眞の關係を顧みると、

何だか嫌らない感じを禁じ得ないのである。本を讀んだ時でも、それを讀んで居る間は可なりの感興を以て其の知識の中に没頭し、又享樂する。それは以前と變りない。併し、愈々讀み終つて巻を

措いた時、以前は、讀了の快感、すなはち人及び自己に對する知識の得意といふ様なものを感じたものであつたが、此頃はそれがなくなつた。講習を聽いて居ても、講師の該博な材料、明晰な頭腦から流れ出る滑かな知識の流れに、丁度流れに游泳する魚の如く自分の頭を遊ばせて居る間の快感は前に劣らないが、さて、その快感の後には一種の形容し難い不快感がついて起つた。それが講義の終つた後にも起るが、時には聽講中にもヒョイ／＼と起つて、充實して居ると思つて居る空氣の中を、時々眞空の風がすう／＼と吹き過ぎると言つた様の感がした。

自然、講習會などに對する夏子の狂熱的感興も前の様には起らないで、今日も、何だか進まない

様な氣がしつゝ、それでも『學問』に曳かれて矢張り出席したのであつた。

講義がいくぎりすんで、十分間の休憩になると、講師が壇を下りて控室へゆくのを待ち兼ねる様に、皆も廊下へ出た。四五日前から急に溫氣を増して來た今日の天候の爲もあるが、講義も一寸うっかりして居ては分り難い程度のものであつた爲に、皆は大分疲れたのである。

『遠山さん』

夏子は窓から空を見て居たが、不意に呼ばれて振りかへて見ると、講堂で丁度自分の後ろの席に居る或る私立幼稚園の年とつた保姆であつた。

『あなたよく筆記してゐらした様ですが、一寸拜見させて下さいな。それから、あすこの處、それから、子供を自然科學的に客觀的とかに研究しなげりやいけないと仰せあつた、あすこの處お分りになりまして。私何だかよく分らなかつたのですが、教へて下さいな』

夏子は、自分の席へ行つて、筆記を持つて来て見せて、質疑の點を説明してやつて居ると、そこへ、懇意な若い保姆が二人手をとりあふ様にして、何か話しながら、その前へ来たが

『大層御勉強ですのね。私睡むくつて／＼仕方ないのですもの。何にも分りはしません。いゝじやないの。どうせあんな六かしいことなんか。それよりか、今度の日曜に帝劇の活動へいらつしやらなくつて。私達今御相談してるんですが、あなたも一緒にいらつしやいましたな。新物でそれは／＼面白いんですつて。ねえ、いらつしやいな。』
と言つて誘ふ様のことを言つて、其癖返事も聞かないで、行つて仕舞つた。

『そうすると、つまり、子供を私達の考へや感じを離れて見なければいけないと言ふのですね。』
呑氣な若い保姆の活動寫眞勧誘に口をつぐませられて居た老保姆は、此時やつと口を開いた。

『まあ、そういふことなんでせう。私にもよくは

分りませんが』

『ほんとうに、そうですねえ。其の客觀的とかの見方をしないから、私達が子供を見間違へたり考へ違へたりするのですねえ。だから、つまり、客觀的にしなければいけないんですねえ。』

老保姆は、つまり／＼を繰りかへしては、頻りに感心して居る。ところが、夏子には、そんなに感心する氣が起らない。のみならず、説明をして居る中に、自分には却つて分らないものになつて仕舞つた。講義の言葉の上では随分ハッキリして居ることの様には思はれて、まるつきり分らないではないが、それで居て、どこか腑に落ちない。その中に、鈴がなつて、次の時間が始まつた。

八

夏子が一日の勤務を終つて、家へ歸るのは大抵四時過ぎであつた。電車を降りてから家まで、人家のある町通りを來れば却つて近いのに、天氣の時は、少し廻り路ながらいつでも籬の多い淋しい

道の方を歩いて歸つた。

夏子は季節では五月が最も好きであつた。青葉もやゝ色の濃くなつた頃の、あの蒸すような、壓するような木々の下などを歩くことは、夏子にとつては、人が四月の花に浮かれるにも優つて愉快な一年中の行樂であつた。しかし何の彼のと妨げられて、ゆつくり此の樂みを味ひ得る年は、めつたになかつた。むかふに見える森を目あてに、草のしげる丘の小道を登つてゆくと、檜の木などの高い蔭に日を覆はれて、うす暗くなつて居る木下關の叢に、ふと野茨の白い花でも見つけた時の胸のとよめきなどを空想しながら、斯うやつて此の道を廻つて歸るのが、せめてもの樂しみであつた。

今日は講習で、いつもよりも遅くなつた。近い道を早く歸らうかとも思つたが、今日は尙更いつもの好きな道が歩き度かつた。殊に、心をそゝのかす様な此頃のツワイライトは、いつもよりも却つて夏子の心を靜かな道の方へ誘つた。

若い者達の威勢よく騒いで居る大きな魚屋の店に添うて横町にはいると、急に世界がうす暗くなる。大きな石の門の立つて居る屋敷を離にそうて曲ると、だら／＼と坂道になつて、そのまゝにうね／＼と暫く暗い道がつゞく。夏子は焦茶の日傘を杖の様にして、歩いて居る中に、さつきからの問題がまた頭の中へ浮いて來た。……我れを離れて子供を見る。……純客觀的に子供を觀察する……どつちから考へを入れて解いて行つたらよいか分らない様な極めて不安な疑ひが夏子の頭を曇らせた。すると急に講習の先生の眞白なカラーが目には浮いて來た。と思ふと、さつき廊下で此の問題を自分に質問して、つまり／＼を繰りかへして満足し感心して居た老保姆の顔が目には浮んで來た。……自分を離れて子供を見る……言葉の上では、はつきりして居ることの様だが、事實の上には、果してどういふことになるのだらうか。そんなことは、自分には出來そうもないし、何だ

か到底ありそうもないことの様な氣もする。先生のお話では之れが極く普通のことの様には言はれたが、それは先生が特別の學者だからかも知れない。私にはどうも分らない。……

あたりが急に明るくなつた。驚かされた様に目をあげると、いつの間にか又坂を上つて、丘の上へ來て居た。そして明るい殘照が、西から東へ空一面に流れて居るのであつた。夏子は歩いて居る中に、いつもの庭の廣い家の前へ來た。其の家は殆んど全部庭の様な打開けた屋敷で、垣根が極くまばらな低いものである爲、通りから其の美しい芝生の庭がよく見えた。奥の方に平屋建ての主屋についで小さい瀟洒な洋館があつて、其の窓の外には一面に薔薇がからみついて居た。夏子はいつでもいゝ室だと思つた。

今日は其の洋館からピアノが漏れて居た。いつも此處を通る時は、もつと時間が早い故か、ついで聞えたことのないピアノの音が今日は珍らしく

漏れて居る。曲は何といふのか、夏子の知らないものであつた。何だか前に聞いたことのあるもの様の氣もするが思ひ出せない。たゞ如何にもやわらかい曲である。夏子は其の洋館を圍む薔薇の花の夕闇にはの白いのを見るときも見つめながら、やわらかい五月の夕暮の空氣に溶けてゆく、其のやわらかい音にちつと聽き入つた。そして、理屈でこぐらかつた頭の中が、滑かに溶けてゆく様な氣がした。

此時ふと夏子の頭に、芳枝さんのお母さまの、すらりつとした上品な姿が浮んで來た。それと同じ時に白いベッドの上の蒼白い芳枝さんの顔が見えて來た。……自分でなければならぬ。……自分でなければならぬ。……何といふ力の強い言葉であらう。それがあの姿のやさしい人の口から出たのである。何といふ力の強さであらう。此の力でこそ我子の病氣がなほるのだ。自分は――

夏子は籬の側を離れて識らずく、歩き出して居

た。——何事でも斯ういふ心持ちがあつてこそ、自分のして居ることに力がある。それでこそ、相手に充分に徹底し得る。自分身分に自分が始めて徹底して来る。之れだ。之れだ。之れが無くて何の力あることが出来よう。私には之れがまるで無い。子供達をどうして喜ばせようかとは思ふどうして益しようかとは思ふ。どうしたら、どうしたら、とばかり考へて居て、自分が一人々々の子供の爲にどの位必要のものだといふことは、一度だつて思ひもしない。子供達は要求して居るのだ。私を要求して居るのだ。私からではない。私をだ。私からお、嘶を聞き度いばかりじやない。お嘶を私から聞きたがつて居るのだ。私と遊、び度いのじやない。私と遊、び度いのだ。それに私は何を與へて居る。——夏子は軽い興奮を覺えて、思はず強い歩を踏んだ。——私はたい勞して居る。何を與へようかと勞して居る。けれども、私自身が一人々々の子供達の爲になくてならないものとな

つては居ない。だから力はいらないのだ。張りがないのだ。工夫があつて力がない。勵精があつて力がない。之れでは保育は仕事だ、勤務だ。お役目だ。私は教育者の中の極く小さい一人に過ぎないが、我が幼兒達は私をそうは思つて居ない。彼等にとつては私丈けが先生だ。私は教育にたづさわるものではなくて、私が教育をする筈なのだ——

夏子は知らぬ間に自分の家の前へ来て居た。小さい門をはいつて格子戸をあけると、お母さんが出て來られて

『夏かい、大層おそかつたねえ』

と言はれた。

母の聲をき、母の顔を見て、夏子は理屈の子から、母の子に歸つた。

『只今、今日は講習がありました。』

『そうそ。講習の日だつたねえ。さつき先生からお葉書が來て居るよ』

夏子は、急いで自分の座敷へ行つて机の上に置いてあつた葉書をとりに上げて讀んだ。

『しばらくお出でがありませんが、お變りはありませんか。御母上もお障りありませんか。あなたの好きな五月ももうおきに終りますね。近い内に遊びにお出なさい。今年は薔薇が大層よく咲きました。』

* * * * *

夏子は其の夜、久しぶりで先生へ手紙を書いた先づ葉書の禮を述べ、近日に薔薇拜見に伺ひますといふ返事を述べ、更に筆を更めて、此頃來の心持ち、幾度か手紙を書きかけて書けなかつたこと等を詳しく書いて、『併し御安心下さいませ。私は保母を辭す様なことは致しません。何にも分りませんがもう一度新たに考へて見ます』と書き添へた。そして、之れでは、何だか立派なことを言ひ過ぎて居るような氣がしたが、先生だから何と書いたつて私の實際を見ぬいて下さる、と思つて其

まゝ封をした。(をわり)

第二十三回三市聯合保育會

大正五年五月二十一日大阪に於て第二十三回京阪神三市聯合大會を開催し得たりしことは、我が國保育事業の進歩發展に資するの深大なるを喜びます。茲に右大會の大意を述べます。

會場 北區堂島小學校

當日京阪神の約六百の保母方は何れも元氣よく會場へ集つた。やがて午前九時君が代の合唱で開會、大阪市保育會長の開會の辭大阪府知事の祝辭代讀。續いて『學校教育の基礎としての幼児保育』と題し奈良女高師教授野田義夫氏の講演あり。氏は幼稚園教育の價值より説き起し、國民道德の根本觀念は幼児期に教養せらるべきものなり。此大切な徳性の基礎は絶對無限の母の愛に依つて家庭にて培はれる。この尊き母の任務に代るべき保母は母の愛を以て其任務を發揮するに於て國家に重大なる功績をなすものといふべきである。猶子供に生命たる遊戲に就ては幼児が遊戲に對する興味熱心努力はやがて成長後の職業の上に移さるべきもの。つまり職業の基礎を作る上に極めて必要と説き終られた。この間約一時間。次に大村女子師範學校長議長席につき今日の眼目たる各地提出の研究題に移る。

研究題一

園児心身發達の正常の標準を定め且其標準より超脱せる幼児の状態を承りたし

(1) 本題を提出せしは全く幼児の個性教育の科學的基礎を漸次に定めんが爲なり

(2) 心身發達の正常の標準とは各園に於て御調査相成居る身長體重と云ふが如き身體方面及び觀察、言語、數觀念の如き精神方面に於ける正常の標準を意味するなり而して本問題はその標準を承り度或は未だ正常の標準を定められざるも斯くくの方法に依らば定め得らるゝとの御考へあらばそれも併せて承りたし

(3) 已に正常の標準を定められたる上は此標準より勝れたるか又は劣りたるかの幼児の心身の狀態并に其數を承りたし

(4) 本題に關する御發表は口述のみにては時間に制せられ各園の貴重なる御研究を充分承り難き憂これあるべければなるべく御記述の上御持參下されたし

神戸市保育會提出

右に對し望月氏の説明左の如し

今回の研究題は不思議にも偶然に三市が至極仲よく提出されたのは全く保育革新の機運に向つたのでありませう。殊に京都市の問題と我市の問題とは密接の關係を有して居ると考へます。大阪市の問題とは兄弟の様であります。正常の標準とは普通の標準の意味で、科學的とはしつかりしたといふ意味に用ひました。どうぞ京都市の智力検査、大阪市の身體方面の調査等を十分に承りたもので御座います云々、猶委しく説明された。

説明終り京都各園の右に對し調査したる繪畫觀察(三田谷氏智力検査第三四兩圖により)に關し有益な報告があつた。そして結果は五才六才の幼児の觀察の規範は活動式であつてそれがまた正

常の標準であるとの事でした。外に音域の標準もありました。身體の方面では豊園の十五年間の身長體重胸圍の平均が出て居りました。(神戸からも神戸兵庫楠三園合同調査十五年間の同様の表が廊下に掲げてありました。)

外に肺活量の有益な表と説明がありました。神戸市よりは神戸各園の調査になる智力検査(三田谷氏繪畫説明第三圖)による綿密なる表を提出されました。然るに其結果が全然京都市の調査を一致して居つたのは面白い御座いました。其他數觀念色の各稱の記憶、樂音模倣力の正常の標準を表によりて説明されました。身體の方面では身長體重胸圍の蓋然曲線が不整であつたのでまだ人數が足りないか知れないとの説明でありましたが、四年間三幼稚園の綿密なる調査で人數は四五百を算するものでありました。時間が不足の爲其調査の方法表の作製等について十分の御説明を伺ふことの出来なかつた。結果文を承はつたのは頗る遺憾でありました。

次に會長より文部大臣祝辭代讀及祝電朗讀等あつて一先づ午前
の部を閉じた。

晝食

午後一時開會

第一京都岩内氏より身體各方面正常標界の必要極めて痛切なれば、三市に委員を設けてこれが調査方法を定め、進んで正常の標準を定められたしとの建議に對し、望月氏の身體方面のみならず智力の方面も同時に能ふかぎり調査の方法を研究したしとの意見出でたるも、何れも過半数に充たずして消滅した。然しかゝる

重要問題が理由なくして討死するのいはれなく、再び三市有志の熱心なる建議によりて此研究を三市保育會の役員會に一任して其方法を一定することゝなつたのは眞に喜ぶべき事でした。

研究題第二

一、園児の成績品を保育に如何に利用すべきか其良法を承りたり幼稚園の幼兒はその活動の結果として廣義の成績品を我等に殘して保育上の參考にして呉れと迫つて居ります例へば圖書をさせますれば圖書の成績品を、豆細工をさせますれば豆細工の成績品を、粘土細工からば粘土の成績品を示して「先生私等の出來映にこんなものですか之によりて明日の私等の保育を更に適切に更に有効になさつて下さい」と願つて居ます所が從來多くは唯其成績品に優劣を附し或はこれを保育室に貽りて園児に見せ又はこれを成績帳として後まで保存して置く位の事をした許りでしただけでも之れではまだ眞の有効なる利用の所まで達して居ない様に感ぜられます其成績品から各兒の心の特徴能力の優劣及び其原因等を發見しまして將來の保育の方法の有力な參考としなければならぬ様に思はれます然らば其成績品から如何にして其幼兒の心身の特徴を知りそれによりて保育を如何に指導したらよろしきか此等の事柄につき研究したいですから皆様の經驗なり御研究なりから此問題につきての御高見を御伺ひたいのです

京都市保育會提出

右に對し清水氏の簡單な説明があつた。

此問題に對しては三市共同性を觀察し長所を助長し短所を補ふことに努力する事に一致した。

十分間談話

京都岡本氏 幼稚園出身兒童の普通家庭より入學せる兒童より始めより終りまで成績優良なる旨を例をあげて説明された。

神戸石田氏 凡ての調査統計には材料の正確と充分なる注意を要する旨を力説し、表によりて體重の調査の食物排泄に如何に關係するかを説明せられた。

大阪上々手氏 幼稚園の先生の態度といふ題にて母の如き態度をよしとする(即ち)深き慈愛(2)眞心の徹底(3)兒童の價値を認めることに就て面白く語られた。

研究題第三

四、精神上又は身體上効果ありと認められたる保育法の實驗談を承りたり

例へば盜癖を矯正したる場合又は虛弱なる身體の健康を増進したる場合の如し

大阪市保育會提出

右につきては三市共實驗談でみちた。いづれも玩味すれば有益にして趣味あるお話であつた。

右終つて閉會は午後四時。語る者も聽く者も何れも其眞面目なる實に他の會合に其比を見ず。保育の進歩發展に裨益すること眞に多大なり。且本會の如きは發表そのものよりも、其以前に於ける各市各團の努力研究が猶一層の發展を促すものといふべきである。實に本會は關西に於ける保育上の最大最重の刺撃である。

猶閉會後餘興に雅亮會寄贈の舞樂迦陵頻伽、童舞陵王があつた

(出席者の一人)

山に添ふて小舟漕ぎゆく若葉哉 (蘇村)

蚊帳を出て奈良を立ちゆく若葉哉 (同)

の一本日 年幼本日

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定價

壹冊拾錢 □半年 郵税共六拾參錢
郵税壹錢 □壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報
少女畫報
日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外
振替東京四九〇〇

東京社

羽仁とも子主幹

子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尚にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によりき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

一定 十一年半分税も十
價 冊 錢 年 郵 六 錢
婦 人 之 友 社 東 京 雜 司 谷
振 替 一 六 〇 〇 番

フレイベル會規則 (抄)

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ獻出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
- 一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品、幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス
- 二、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、協議、實驗等ヲナス
- 三、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
- 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス
- 一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
- 一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

會長

中川謙二郎

會告

○本會事務所先般より東京女子高等師範學校附屬幼稚園内へ移轉致候處尙御承知漏も有之候様につき重ねて申上候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願候

○萬一本誌不着等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

○會費御未納は會計整理上甚だ困却致候に付確實に御納付下され度尙後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置き願候

フレイベル會

土方久元伯、股野琢、與倉喜平三閣下題字並序
 東京帝大教授中島力造、松本亦太郎兩文學博士序
 東京高師教授乙竹岩造、佐々木吉三郎兩先生序
 東京女子高等師範學校教授下田次郎先生序 平瀨龍吉著

萬民 兒童問題之將來 必讀

親として子を愛せない者はなく、子孫の出精と發展を望まない人はない。本書は斯る父母と幼稚園嫗姆の爲に無垢の兒童を立派な人物に仕立てる途をば面白く流麗、玉の様な歌の體に書き流したもので何人も一度本書を繙く時は其面白さに酔されて怨を終ふるを忘るゝと云ふ一大快著たることは甲賀ふじ子先生を始め斯道大家たる乙竹岩造先生等が『本書は兒童問題の將來を面白く説いた本で、廣く一般家庭に詳讀諷唱せられまじたら、到る所、偉大なる富豪金傑の氣魄精神を兒童の間に鼓吹することを得て、大和民族の發展と幸福進歩の爲に大なる益を興ふるものたるを保證して疑はない』との評語を見ても明かである。子女の賢明を望まると父母と兒童を愛する方々が之に依りて新しき教訓と大なる利益を受けられんことを望む。

正價金壹圓參拾錢送料拾錢

發行所

東京市小石川區大原町十四

幸運社

賣捌

東京麴町區三番町

フレイベル館

振替東京參壹八八九番

振替東京一九六四番

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)

婦人と子ども 第十六卷第六號

大正五年六月五日發行
 大正五年六月五日丙本齊

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場